



NPO 法人 十勝障害者サポートネット 北海道帯広市西 15 条南 16 丁目 2 番地 4

☎0155-25-5987 📧 tokachi-support.net 文責・編責/小栗静雄

2021

May

No.08

## R3 年度サポートネットの重点事業

新型コロナウイルスも収まらない中で新年度を迎えました。当法人でも感染予防しながら利用者のサービスの質をどう保っていくか、答を模索しながら何とかやっています。今は最善を尽くして穏やかな日が来ることを待つしかありません。以下はコロナの状況次第ですが、R3 年度のサポネの重点事業を幾つかご紹介します。(目新しいものはありませんが…)

### ★ I) 地域・他機関との連携・共同

#### ～「ケアマネ連携会議」「医療連携会議」～

サポネを利用している約 150～170 名の一人ひとりの方達の日常の情報交換や方向性等を、担当のケアマネさんや病院のワーカーさんと個別に行う地道な作業です。両方が終わるまでに 4 ヶ月以上かかりますが、互いの信頼関係を作るうえでもとても貴重で大事な仕事になっています。

#### ～「障害者 GH 連絡会」の継続と研修～

GH と言っても運営や決まり事など様々で、情報交換や入居者への対応など参考になる事は山ほどあります。時には慰め合ったり励まし合ったりでスーパーバイズ的な機能も発揮しています。今年も世話人・支援員研修を行う予定です。

### ★ II) 防疫・防災・危機対応など

#### ～激震想定下による全サポネ一斉避難訓練～

職員、利用者約 250 人近くが日時を合わせて行う、大地震を想定した指定避難所への一斉避難訓練です。市内 15 の事業所がそれぞれ避難を開始します。近くもあれば遠い所もあり随分心配しましたが、前回は少しへばったり、互いに声を掛け合ったりリタイヤー一人を除き全員が無事避難出来ました。職員の学びも沢山ありました。利用者からも「やってみて良かった」という声が大多数でした。コロナが落ち着いていれば又頑張ります!!

### Group Home date (担当/山本)



#### スカイコーポ

西 3 南 4-4-1

定員 18 名(空室 0)

#### ひまわり荘

西 5 南 9-2-8

定員 11 名(空室 1)



#### イランカラプテ

西 15 南 16-2-4

定員 8 名(空室 2)

#### 結(ゆい)

西 18 南 2-6-11

定員 9 名(空室 1)



#### コーポ長浜

西 18 南 5-9-6

定員 7 名(1/女性)

#### 朋友荘

西 19 南 2-9-8

定員 11 名(空室 1)



## ★Ⅲ) 研修・調査など

### ～地域オープン研修～

他の事業所の方々にも参加していただける研修です。前回は外部講師をお呼びし、様々な学びを得て好評でした。

### ～スーパービジョン基礎研修～

スーパービジョンの基礎的な事を学ぶ機会を是非作りたいと思っています。

## ★Ⅳ) 研究課題の検討

### ～当事者、ケアマネ、サービス事業所による同席合同のプラン作成の試行～

当事者同士が一つになって共通のプランをつくる仕組みを考えたいという発想です。複数の機関に声を掛けて準備が始まっています。有効性があればお知らせします。

### ～利用者の生活満足度調査～

長年の課題です。なかなか語る機会のないこのテーマを検証したい。

### 悠夢ハイツ

西2南18

定員12名(空室2)



### SUN プロ例会及び Café「NANDA☆かんだ」案内

- ・月例会；(通常第2火曜)～予定  
6月8日(火)18:30～グリーンプラザ
- ・SUN プロ Café「NANDA☆かんだ」  
毎月第4火曜,18:30～(L・O/19:30)  
サポネ本部ロビーにて開店

### Staff Column

実録・我流ソーシャルワーク

### さまよう「当事者ニーズ第一主義」～生活・福祉サービス機能の分断～

### 職員コラム

「兄弟で暮らしているが、弟氏は60才代で統合失調症。20代から入通院していて、お兄さんも高齢なので弟氏は障害サービスを利用して独立したいと聞いた。近所に障害者GHがあり、以前からなじみもあるようだ。相談にのってあげたら」との知人からの連絡だった。

後日ご兄弟と会い簡単な経緯を聴く。弟氏は「病院の仲間ともGHの話題になったり、働きに出ている人もいる。先生からも体調を見ながら日中活動や就労利用もOKと言われていた。自分も生活を変えて前に進みたいと思う」との事。表情も穏やかで、自分の行く末を淡々と語ってくれた。私は障害福祉サービスの概要や手順などについて説明していたのだが、ふっと思い立ち「他に手帳のようなものはありますか？」と訊ねると彼は「ああ、この間介護の認定を受けました。要支援1になってます」……。ソッ、3ヶ月前に65才になり、後々の事も考え介護認定を勧められたという。ああ、又カッ！あらためて「介護サー

ビス優先原則」を説明すると、彼は見るからに戸惑いながら肩を落とした。「老障一元化」論議以来、ただ々々アライバイ作りの為のような議論が延々と続いている厄介な課題だ。

1. 介護サービス優先原則というイビツな仕組み  
2. 当事者ニーズ尊重の空洞化 3. 自己決定の意義とは 4. 崩れる生活設計や未来像 5. サービス利用の分断 6. 本人のニーズに合わせた総合的なサービス提供の説明の在り方、等々があからさまになる。

ここでもソーシャルワークと分野別ケアマネジメントの乖離が顕在化した。

再訪した際、兄氏から「あの日以来食事以外閉じ籠っている。会話もない。表情も不安」との事。介護のケアマネ氏に相談する事を伝え、「介護サービスも悪くないですよ」と自分の腹立たしさを隠すようにそう言うのが精一杯だった。

どなたか、いい知恵はないですか？

(了)